

刈谷東中学校の研究理論

目指す生徒像

- 学習対象への見方・考え方を働かせながら、未知なる事象に挑む生徒
- 学習対象への見方・考え方を磨く生徒

「未知なる事象」とは

既習内容を活かした発展的内容や生活に関連する事象のこと。

「見方・考え方を磨く」とは

各教科等における見方・考え方を織り交ぜながら、多面的・多角的に見たり、考えたりし、自分の考えを再構築すること。

研究の仮説

見方・考え方を働かせて、自分の考えをもつための場を設定し、二段階の発問を仕組むことで、未知なる事象に対しても臆することなく挑み、仲間と共に見方・考え方を磨くことができるだろう。

研究の手だて

① 見方・考え方を働かせて、自分の考えをもつための手だて

- I 学習対象に対して、見方・考え方を働かせ、自分の考え方をもつために、個人で調べたり、確かめたりする個人追究の場を設定する。
- II 自分と仲間の見方・考え方を比較・検討するために、班や学級全体の意見交流の場を設定する。

② 未知なる事象に誘い、見方・考え方を磨くための手だて

- I 単元構想の中で、二段階発問を仕組む。そうすることで「分かったことを基に根拠をもって説明したくなる問題」や「できるようになったからこそ、新たなことにチャレンジをしたくなるような事象」に誘う。
- II 見方・考え方を織り交ぜ、考えを再構築するために、班や学級全体の意見交流の場を設定する。

校長あいさつ

本校は令和5、6年度の2年間、刈谷市教育委員会より研究指定を受け、この度、研究発表会を開催させていただき運びとなりました。

本研究で推し進めてきたのは、「生徒一人一人が自分の考えをもち、仲間と共に学びをより深める」授業、言わばどの学校でも当たり前に行われている授業です。ただ、私たちがこだわってきたのは、学びを深めさせる際の「発問の工夫(二段階発問)」です。それまでの学びを基に、生徒がもうひとひねりして考えなければならないような発問を教師が繰り出し、生徒の知的好奇心をくすぐり、「東中生を本気で学習に立ち向かわせたい!」という強い思いで本研究に取り組んできました。そして、生徒が本気で立ち向かう学習の中で、物事を捉える視点や考える方法となる各教科等の「見方・考え方」が、更に豊かなものに成長することと信じて止みません。

本研究では、授業づくりにおいて愛知教育大学 准教授 青山和裕先生、講師 澤田佳予子先生をはじめ、多くの先生方に変えていただきありがとうございました。ここに、厚く感謝申し上げます。

私たちの研究は、まだまだ道半ばです。本日の研究授業をご参観いただいた皆様方の貴重なご指導やご意見を参考にさせていただきつつ、更なる研究推進を目指して参りたいと存じます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

刈谷市立刈谷東中学校長 住田 裕司

研究同人

校 長	住田 裕司	教 頭	伊藤 正秀	教務主任	◎瀧平 涼子
校 務 主 任	中島 洋介	養護教諭	梅村 靖子	栄養教諭	深谷美由紀
国 語	○上野 義峰	◎岩見 祐希	加藤 理絵	久保 美星	足立しのぶ
社 会	○近藤 悠介	鹿志村典子	内田 克宙	高瀬 和真	鈴木 達八
数 学	○赤川健一郎	本間 敏来	平野 真登	竹口 優加	櫻井 康志
理 科	◎村松伸太郎	☆水品 雄太	下山 珠莉		
英 語	○黒田 峻介	饗場 直子	神谷 健人	松下 広貴	岩崎あかね
	渡邊 元子	西口好志子			
音 楽	○杉浦 麻衣				
美 術	○小田 淳也	澤田朋由紀			
保 健 体 育	○塚本 敦史	安東 由香	向井 史昭	中垣 和也	
技 術・家 庭	○豊川 俊二	○安野 里枝			
特 別 支 援	○大田 将史	山田可奈子	渡邊 清寿		

☆－研究主任 ◎－主題小委員 ○－主題推進委員

〈令和5年度〉

牧原 正巳 角谷 美香 酒井 郁代 横山 竜矢 石橋 保尚 杉本 尚史
浅川 真琴 井口 香奈 眞野 恵佑 國枝 遼馬 小林美記代

未知なる事象に挑み、 見方・考え方を磨く生徒の育成

～教科学習における二段階発問を通して～



本校の生徒たちは、知識や技術の習得を目指す授業においては、仲間の発言に耳を傾け、熱心に取り組む姿がある。しかし、知識を活用し、思考するような発展的な問題を解決する場面では、仲間に自分の考えを表現することにためらいがちな生徒が見られる。

このような生徒たちに、各教科において、仲間の見方・考え方にふれ、問題解決に向かう中で見方・考え方を磨いてほしいと願い、本研究主題を設定した。

刈谷市立刈谷東中学校
令和6年 10月9日(水)

